

高度・専門機能（救急・災害時の医療）

一般病院1 一般病院2 一般病院3 リハビリテーション病院 慢性期病院 精神科病院 緩和ケア病院

Improve Vol.23

～認定病院の改善事例紹介シリーズ～

| 紹 | 介 | 事 | 例 |

医療法人 桜十字 桜十字病院

「共通の目標を持ち情報を共有すれば、コミュニケーションが生まれて多職種連携できる」

- 仕掛けはワンフロアのオフィス構造
- 全スタッフが漏れなく情報共有
- スタッフのモチベーションを高める! 各部の取り組み

人事部：「がんばりを認める機会」をつくる
薬剤部：薬剤見直し 年間1020件達成
看護部：熱意のある人に、まず働きかける

《本事例対象エリア》 熊本県熊本市



人の安心、医療の安全 JQ
公益財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

<https://www.jq-hyouka.jcqhc.or.jp/>

共通の目標を持ち情報を共有すれば、コミュニケーションが生まれて多職種連携できる

医療法人 桜十字 桜十字病院

私たちは「2025年に地域包括ケア時代のトップリーダー集団へ」という病院全体の目標を掲げ、2020年から情報共有とコミュニケーションに力を入れて目標達成を目指しています。

(病院長 倉津 純一)



もちろん定期的な会議も活発に行う。週1回、院長と各部門長が集まる管理運営会議では、各部門の目標の達成度を報告しあい、互いに活かすようにしている。

全スタッフが漏れなく情報共有

表1のとおり、部門間やスタッフとの情報共有にも力をいれている。毎朝の「情報一致朝礼」には全部門長が集まり、その日の予定などを発表しあう。スライドにまとめられた情報を各部門長が持ち帰り、職員全員が出勤時に閲覧するルーチンを作った。「全体一致」と呼ばれる毎月の職員集会や年1回の「院内学会」でも、それぞれの部門の取り組み、目標、成果などが随時発表される。院内の他の部門がいま何をしているかを、すべての職員が知ることができる機会を作っている。

「チーム医療ですから、多職種連携が重要です」と濱田みね子看護部長は話す。「2020年に、病院全体で重点方針を掲げてから、多職種連携が非常にうまくいくようになりました。共通の目標を達成するには、部門間の協力が必要です。話し合わないと目標を達成しにくいので、多職種で自然に話し合うようになるんです」(濱田看護部長)。

表1 各部門・スタッフの情報共有の機会

名 称	内 容	対 象	頻 度
情報一致朝礼	全部門長と幹部がその日の予定を共有する朝礼	幹部 全部門長	毎日
管理運営会議	院長と全部門長が集まり、目標達成度の報告をする会議	幹部 全部門長	週1回
全体一致集会	各プロジェクトチームや優秀な職員の取り組みを表彰する全職員参加の集会	全職員 (必須)	月1回
院内学会	チームや個人で院内で行った各取り組みを発表し優秀者は表彰される	全職員 (任意)	年1回



毎朝8時半から10分間、ワンフロアに幹部と全部門長が集まり、その日の予定を共有する「情報一致朝礼」。

